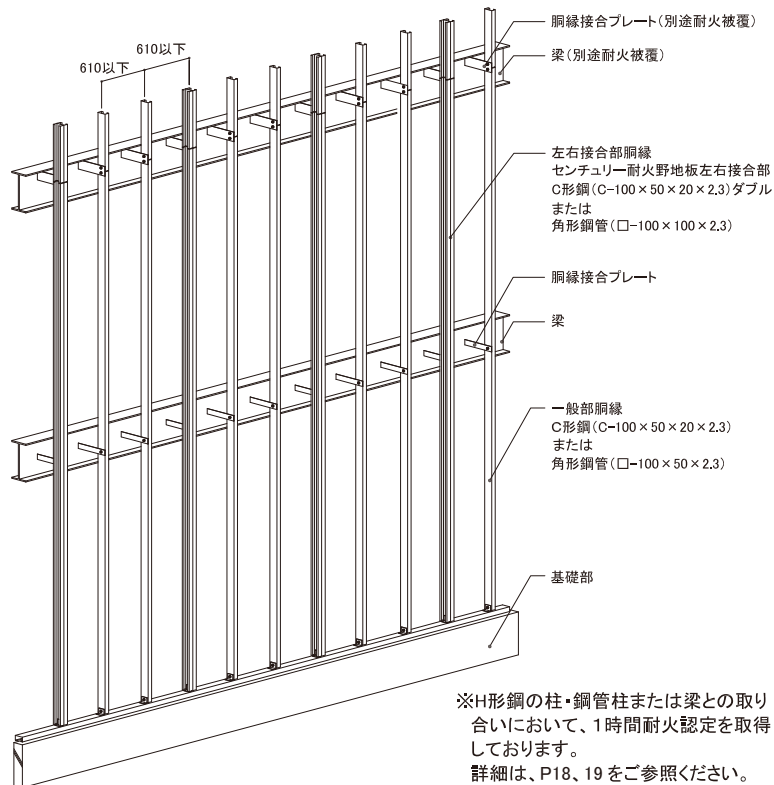


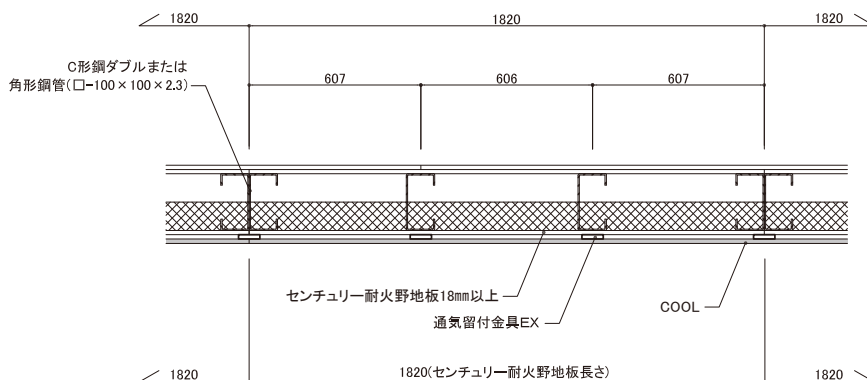
鉄骨下地組基本構成図

- 鉄骨胴縁はC形鋼(C-100×50×20×2.3以上)または角形鋼管(□-100×50×2.3以上)で縦胴縁とし、最大610mm以下の間隔で組んでください。
- COOLは風荷重を受けますので、下地材は設計計算により最大610mm以下の所定の間隔になるように設定してください。
- センチュリー耐火野地板の左右接合部はC形鋼をダブルで組むまたは角形鋼管(□-100×100×2.3以上)としてください。
- 鉄骨躯体梁にあらかじめ胴縁接合プレート(別途耐火被覆)を留め付けておいたものに、不陸を調整しながら鉄骨胴縁を留め付けてください。
- 下地躯体の梁および胴縁接合プレートは別途耐火被覆してください。
- 階高さなど、鉄骨胴縁の上下留付間隔が長くとわみが大きくなる場合は、胴縁間隔を狭めたり、耐風梁を入れるなど鉄骨胴縁のたわみ変形を1/120以下に抑えるよう設計してください。



横張り四方合いじゃくり品

- 屋外側はセンチュリー耐火野地板働き長さ(1820mm)ごとにC形鋼胴縁がダブルまたは角形鋼管(□-100×100×2.3以上)が必要になります。一般部およびCOOLの左右接合部は610mm以下の間隔にC形鋼胴縁または角形鋼管胴縁を取り付けてください。



※1時間耐火構造の場合、室内側強化せっこうボードの上張りは、下張りの強化せっこうボードと目地が重ならないように千鳥に張ります。